

(3) 民間・総合

第3種郵便物認可

施工効率化に効果

道内で圧力調整注入工法を展開

コンクリひび割れ補修技術

古垣建設

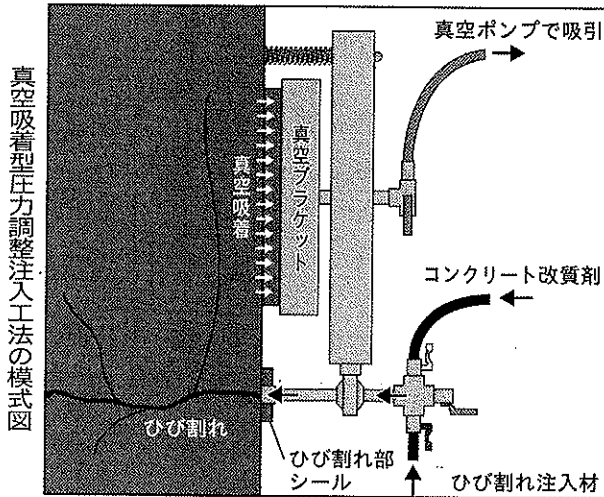
【小樽】古垣建設（本社・余市）は、栄組（岩手県遠野市）が開発したコンクリートひび割れ補修技術「圧力調整注入工法」の施工協力店として、道内一円で工事を受注している。従来工法よりも

深部までの充填（じゅうてん）が可能となり、施工の効率化やコストダウンにつながるという。

同工法は、注入器をコンクリート構造物に取り付け、空気の圧力でひび割れ表面からコンクリート補修材を注入するもの。真空吸着型とノズル型があるが、いずれも簡単に注入も可能だ。

単に取り付けができ、注入プラグの設置・撤去が不要となる。

注入圧力を調整できるため、従来工法より効果的にひび割れの隅々まで注入できる。補修材は有機質系、無機質系を問わずあらゆる種類を使用でき、複数の補修材の連続注入も可能だ。



これまでコンクリートを削るしかなかった細かいひび割れにも注入できるため、廃棄物がほとんど出ないのも特長となっている。

いる。

2011年度には国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録。古垣建設の桜庭

健取締役は「東北地方で広く普及している技術で、年々実績を伸ばしている。道内でも広げたい」と話している。